

「おじいちゃんかいぞくが海賊こらだった頃」(1968)



KIDS★MOMAT

のぞいてみよう!  
アニメーションの  
不思議



「おこんじょうり」(1982)

Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto

ぞうけい さく ひん  
造形作品でみる

おか もと ただ なり  
岡本忠成アニメーションの世界

セルフガイド

おかもとただなり  
**岡本忠成**って  
 ひと  
**どんな人?**

岡本忠成は1932年、大阪府に生まれました。人形アニメーション作家・持永只仁のもとで学んだあと、1964年に自分の会社を設立して、その後、木、皮、布、毛糸、紙、粘土、プラスチック、金属、杉板、張り子などいろいろな素材を用いて作品を発表しました。また1972年から6年間、人形アニメーションの川本喜八郎と一緒に、映画と人形劇を組み合わせた公演を開いて高く評価されました。1990年、「注文の多い料理店」製作の途中で亡くなりましたが、その作品は川本の手で完成されました。代表作「おこんじょうるり」(1982年)をはじめとして、岡本忠成の映画は今も多くのファンに愛されています。



岡本忠成

いろいろな  
 素材

会場内には、アニメーション作家・岡本忠成の作品で実際に使われた人形などが

並んでいます。岡本忠成はとてもかたい木彫りの人形からやわらかい毛糸、動物の皮まで、いろいろなものをアニメーションの素材に使ったことで知られています。作品によってこれほどまでに素材や作風を変える作家はほかにはいません。また、これらの人形のほとんどを手がけたのが保坂純子さんという一人の人形作家であるということにも驚かされます。実際にどのような素材が映画に使われたのか、会場の中をまわってみましょう。かたちも表情もさまざまな人形を見ると岡本忠成が常に自由な発想でアニメーションを作ろうとしていたことがわかるでしょう。



「おしちゃん海賊だった頃」  
 (1968)



「日本むかしばなし ざるかに」  
 (1972)





「キツツキ計画」  
(1966)

## アニメーション の技術

ビデオモニター(→マップA)で『あれはだれ?』製作風景を見ましょう。毛糸で作った人形を少しずつ動かしながらたくさんの写真を撮影して、1秒間に24コマの速さで映すと、人形が生き生きと動き出して見えます。これがアニメーションの技術です。アニメーション作りはとても忍耐のいる作業で、1日かけても数秒間の映像しか作れないこともあります。そして人形が思い通りの動きをしてくれるのかどうか、映画ができるまでは判りません。会場内のビデオモニターでは完成した映画の一部を見ることができます。展示されている人形たちが映画の中ではどんな《演技》をしているのか見比べてみましょう。

会場のマップは裏面にあります。

## アニメーション映画 のスタッフたち

展覧会入口の写真(→マップB)には、岡本忠成と一緒に仕事をしたスタッフたちが写っています。岡本忠成さんを見つけることができましたか? アニメーション映画を作るには監督やカメラマンのほかに、人形や背景を作る人、人形を動かす人など、たくさんのスタッフの協力が必要です。それぞれ得意な技術を持ったスタッフがお互いにアイデアを出し合って、素晴らしい作品を作り上げるのです。そしてチームワークがなければよい作品はできません。1本の作品にどのようなスタッフが参加しているのか、「おこんじょうり」の例を見てみましょう。

「おこんじょうり」  
(1982)



### 「おこんじょうり」(1982年)

#### ●原作

さねとうあきら

#### ●脚本・演出

岡本忠成

#### ●アニメーション

藤森誠代

長崎希

吉田悟

渡辺雅子

中島佳子

横川たか子

#### ●人形

保坂純子

阿彦よし子

佐野吉紀

#### ●背景

若佐ひろみ

三澤博道

渡辺静子

#### ●撮影

田村実

伊丹邦彦

#### ●録音

甲藤勇

#### ●編集

相沢尚子

#### ●語り・声

長岡輝子

小野寺かほる

#### ●唄

木村富穂

後藤哲夫

#### ●作詩

東川洋子

#### ●作曲・演奏

高橋祐次郎

堅田喜三久

中川善雄

#### ●振付

藤間蔵人

#### ●作画・仕上

榎坂千鶴子

柳本孝子

黒田直美

#### ●協力

平井孟

#### ●現像

東洋現像所

#### ●制作

(桜映画社)

村山英世

花咲哲

(エコー社)

岡本忠成

南波千浪



おかもとただなり  
岡本忠成の  
セル・アニメーション

シナリオと  
絵コンテ

岡本忠成は人形アニメーションのほかに、平面的な絵を動かすセル・アニメーションもたくさん作りました。一般のセル・アニメーションでは透明なセルロイドの上に線を書き、色を塗るのが普通ですが、「鬼がくれ山のソバの花」(→マッパC)ではセルロイドの上に白いパテを塗り、その上から彩色することで、まるで水彩画のような表現を生み出しています。ビデオモニターで完成作品の映像も見てください。クレヨン画のような「チコタン」(→マッパD)もイラストマーカで描かれた「旅は道連れ世は情」(→マッパE)も、皆さんがテレビで見慣れたアニメとは一味違うのがわかるでしょう。

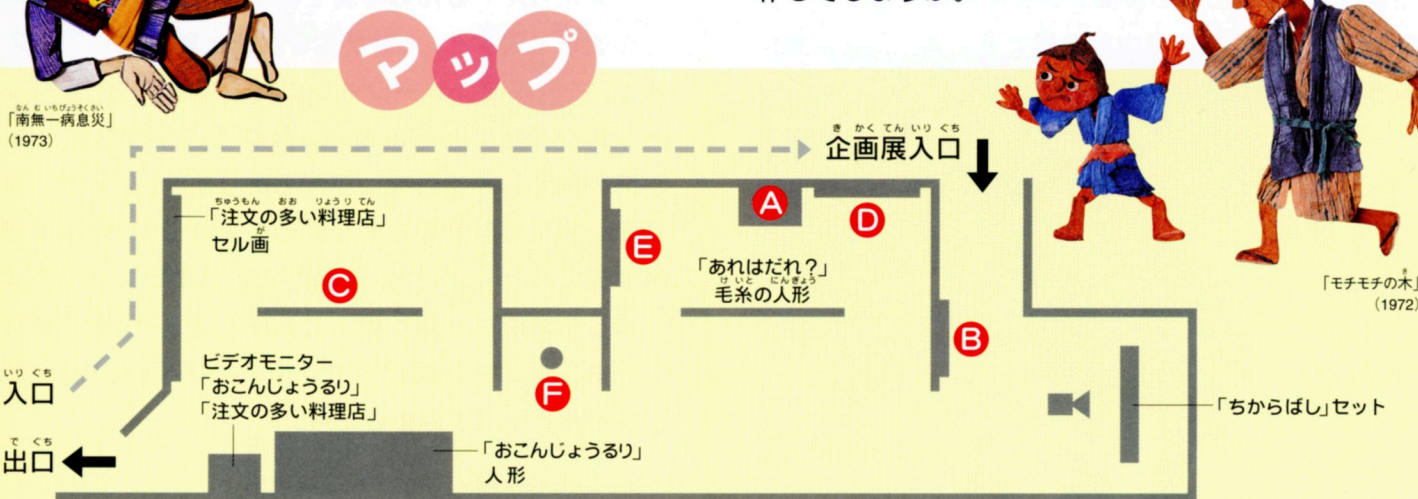


「南無一病息災」  
(1973)

映画作りは、せりふやナレーションを書いたシナリオや、画面のイメージをスケッチした絵コンテを作るところから始まります。実際に岡本忠成が描いた絵コンテ(→マッパF)をめくってみましょう。シナリオや絵コンテは監督の頭の中にあるイメージを素直に描き出したものであると同時に、そのイメージをスタッフに伝える大切な役目を持っています。岡本忠成の遺作となった「注文の多い料理店」は、岡本忠成が亡くなった時に絵コンテまでしかできていませんでしたが、岡本と同じ著名なアニメーション作家の川本喜八郎が完成させました。みなさんが映画監督だったらこの絵コンテからどんなアニメーションを作りたいですか。



「モチモチの木」  
(1972)



- A ビデオモニター「あれはだれ？」製作風景
- B アニメーション映画のスタッフたち(写真)
- C 「鬼がくれ山のソバの花」セル画仕上げ手順
- D 「チコタン」セル画
- E 「旅は道連れ世は情」セル画
- F 岡本忠成の絵コンテ

# 造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界

会期：2004年4月6日(火)－6月27日(日)

7月6日(火)－8月29日(日)

会場：東京国立近代美術館フィルムセンター展示室

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

特別協力：株式会社エコー

協力：保坂純子／(株)桜映画社／ジェネオン エンタテインメント(株)／  
(株)紀伊國屋書店

## 常設展のご案内

### 展覧会 映画遺産

一東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより一  
フィルムセンターが集めてきた珍しい映画の資料が展示されています。  
昔の映画や機械をみることができます。

## 上映のご案内

### こども映画館 アニメーションおもしろ七変化!

岡本忠成のアニメーション映画とその元になった造形作品という2つの鑑賞体験を通じて、子どもたちにアニメーションの仕組みと面白さを立体的に知ってもらう企画です。研究員の分かりやすい解説も加えて、各1時間強のプログラムとなります。

7月24・31日 8月7・14・21・28日(夏休み期間中の土曜日)

午前10時30分スタート(午前10時開場)

会場：東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール → 展示室

てんじしつ  
展示室での  
やくそく

はしらない  
ぶつかるとキケン

さわらない  
ひんたいせつ  
展示品は大切に

しずかな<sup>こえ</sup>声で  
しずかに<sup>み</sup>見たい  
人のために

**N** 東京国立近代美術館フィルムセンター  
**F** **National Film Center**  
**G** The National Museum of Modern Art, Tokyo

発行・著作：東京国立近代美術館©

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1 TEL 03-3214-2561

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL 03-3561-0823

制作：印象社

発行日：2004年7月21日